

医学研究センター

医学研究センター

松下 祥
(センター長)

医学研究センターは以下の6部門で構成され、それぞれが異なる視点から研究を支援している。

- 1) 研究支援管理部門：外部資金獲得の支援や学内グラントに関わる。
- 2) 共同利用施設運営部門：各種共同利用施設の運営に関わる。
- 3) 安全管理部門：RI, DNA, 薬物, 環境, 動物, 感染など, 研究活動における安全管理に関わる。
- 4) フェロロシップ部門：大学院生以上助手未満への経済的支援に関わる。
- 5) 研究主任部門：基本学科と医学研究センターの情報共有に関わる。
- 6) 研究評価部門：研究活動の内部評価や外部評価に関わる。

全キャンパス両学部から選出された構成員からなる運営会議を月に1度開催し、活動している。部門内での会議も適宜開催されている。研究の実務に詳しい教員が主導しているのが医学研究センターである。一方、契約・経理・倫理などに詳しい職員が主導しているのが、リサーチアドミニストレーションセンター（後述）、という棲み分けで活動している。

研究用の共同利用施設は、中央研究施設（毛呂山キャンパス、日高キャンパス）、研究部（川越キャンパス）があり、多くの利用者の研究活動を支援している。共同利用施設運営部門は、各施設における研究分野ごとの部門、動物実験系、放射線（RI）系、形態系、機能系の部門長、施設長、研究者の委員により構成され、研究設備の整備、研究環境の改善、利用者の利便性、研究支援の向上、学内外のグラント申請等について検討し、それぞれの施設の整備、運営に反映させている。また、「共同利用実験室」と呼ばれる共用実験スペースを管理し、研究室を持たない研究者や研究室の構築段階にある研究者に対して便宜を図っている。

また、このような共同利用実験室はゲノム棟内にも設置された（中央研究施設 日高ブランチ）。この設置は、ゲノム医学研究センター棟の5階をリサーチパークに改装し、産学連携の場を創出するRAセンターによる活動と密に関係している。令和元年度早々には入居する企業の公募が始まった。企業が単独で入居して本学の研究の場を利用するのではなく、本学の研究者との共同研究を前提にして入居することになる。本学の知的財産活用状況は長年、国内単科系医科大学でトップの座を保っているが、29年度実績ではこれがさらに倍増し、国内ランキングを上げる予想である。リサーチパークにおける活動はこのような本学の特色を更に伸ばしていく原動力になってくれるものと期待している。

安全管理部門では本学における研究・教育・診療活動に必要な安全管理を行うことを業務とする。1) 麻薬や向精神薬、農薬の管理を行う薬物分野、2) 研究用の放射性同位元素をRI実験安全委員会と協力して管理するRI分野、3) 実験系廃液及び廃棄試薬の管理を環境安全委員会と協力して行う廃液等環境分野、4) BSL2以上の病原性微生物やそれらが産生する毒物等の管理を病原性微生物等管理委員会と協力して行う感染分野、5) 組換えDNA実験を組換えDNA実験安全委員会と協力して行うDNA分野、6) 実験動物の管理を動物実験安全委員会と協力して行う動物分野、の6つの分野により構成される。

研究主任部門では、学内グラント受賞者による研究発表会を主催し、研究倫理教育用教材の作成も行っている。ゲノム医学研究センターでは毎年シンポジウムを開催している。医学部3年生に対して「研究医養成プログラム」への参加を公募し、課外学習プログラムや慶応義塾大学の学生研究発表会などへの参加を通じて研究医養成活動を展開している。

研究評価部門では、学内の研究者の研究業績を登録・集計・公開することによって本学の医学研究の発展に資することを目的に、平成18年から研究業績データベースシステム（以下、本システム）を導入し運用している。導入以来、本学のすべての常勤研究者を対象に研究業績を登録し、国立研究開発法人科学技術振興機構が運用する「新世代研究基盤リサーチマップ（researchmap）」と連携した研究業績の公開、教員の研究と診療の専門性に関するデータベースの運用、大学病院の特定機能病院認定、国際医療センターのJCI受審等のための研究業績の集計・出力に活用している。さらに平成26年度人事考課からは研究業績の確認にも用いられるようになり、平成27年度人事考課からは「研究ポイント」として研究活動の実績を数値化し、提出書類に「研究ポイント」を記載することとなった。平成30年3月現在、医学部と保健医療学部をあわせて1,310名の研究者が登録されている。

マスコミでも話題となったが、ハゲタカジャーナルの蔓延が気になる。投稿料・出版料のみを狙った“学術雑誌”を刊行する悪質な業者が存在する。著者自身や大学がマイナス評価を受けるのみならず、サイトの閉鎖により論文が閲覧不能にな

り得る。PubMed (<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/>)に記載されていないジャーナルや優良出版社リスト (<https://publicationethics.org/members/publishers>)に含まれない会社が運営するジャーナルは特に注意が必要である。

知財戦略研究推進部門はリサーチアドミニストレーション (RA) センターに移動した。

平成 30 年度も以下のような学内の各種グラントを運用した。

1) 学内グラント

丸木記念特別賞，関口記念特別賞，一般枠からなる。一般枠は前年度の文科省科研費に応募し，不採択となった者が申請資格を有する。

2) 研究マインド支援グラント

課外プログラム助成，共通部門助成，医学部若手限定助成の 3 種類がある。

令和元年度の申請締め切り日（予定を含む）は以下の通りである。助成実績などは医学研究センター HP から参照可能である。

学内グラント： 令和元年 5 月 21 日

研究マインド支援グラント（課外プロ）：令和元年 5 月末日

研究マインド支援グラント（共通部門）：令和元年 5 月 10 日

研究マインド支援グラント（医学部基礎系若手）：令和元年 7 月予定

その他にも保健医療学部のグラント，病院長裁量経費による若手支援グラントなどがある。

また，平成 26 年 12 月には「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」が公表されて 27 年度から施行されることも重なる。新たな管理組織の必要性が大学・法人間および教員・職員間で共通に認識されるようになった。その結果 27 年度からスタートしたのが，リサーチアドミニストレーション (RA) センターである。また，これまで研究支援業務は様々なキャンパスに分散していたが，毛呂山キャンパス 2 ビルの整備が進み，令和元年度早々には多くの研究関連担当部署が一堂に会する体制となった（表 1；2019 年 6 月 1 日時点での構成員）。

以下を主な活動内容とする。

- 1) 諸規程の整備
- 2) 大学倫理審査委員会支援
- 3) 認定臨床研究審査委員会支援
- 4) 大学 COI 管理委員会支援
- 5) 研究不正の防止
- 6) 研究費の適正使用
- 7) 研究費の獲得
- 8) 研究に係る診療組織との連携
- 9) 研究に係る教育とモニタリング
- 10) 外国為替及び外国貿易法への対応
- 11) 知的財産の管理運用
- 12) その他研究の推進と管理に係ること

これらの活動は学内 HP (<http://smswww/ra/index.html>) でも紹介されている。

表 1. リサーチアドミニストレーションセンター 構成員 (2019年6月1日現在)

センター長	副学長 松下 祥	副センター長	教授 千本松孝明
(顧問)	専務理事 棚橋紀夫	シニアU R A	教授 小林国彦
事務部門		委員会事務局	
事務統括	課長 佐藤勝茂	各委員会事務局の統括、研究活動並びに公的研究費等の適正化推進委員会、地域救急医療連絡会議、寄附研究部門設置委員会、研究部門eラーニング支援体制委員会	
研究支援担当		委員会事務局	
	主任 仲村由紀子	C O I 管理委員会事務局	
	神田春香	組換えDNA実験安全委員会事務局	
	中沢恭世		
	伊藤大祐	組換えDNA実験安全委員会事務局	
研究倫理担当 (大学倫理審査委員会事務局)		委員会事務局	
	小鷹徳子	(兼務) 臨床研究審査委員会	
	長田佐絵	(兼務) 臨床研究審査委員会	
知的財産・産学官連携担当		委員会事務局	
	講師 菅原哲雄	特許等委員会事務局	
	石川友美	特許等委員会事務局	
産学官連携アドバイザー	豊田浩一	非常勤講師	
知財アドバイザー	林 利蔵	非常勤講師	
シニアU R A	川口 勉	非常勤講師	
契約アドバイザー	遠 保宏	非常勤講師	
特定臨床研究推進センター (臨床研究審査委員会事務局)			
室長	小林 国彦		
	福永由佳		
	中島奈月	(兼務) 大学倫理審査委員会事務局	
(兼務者)	古木一成	大学病院臨床研究センター	
(兼務者)	浅見文子	総医セ臨床研究支援センター	
(兼務者)	石井正幸	国医セ臨床研究適正推進センター	
(兼務者)	小鷹徳子	大学倫理審査委員会事務局	
(兼務者)	長田佐絵	大学倫理審査委員会事務局	
リサーチパーク担当			
責任者	松下 祥		
(兼務者)	千本松孝明		
(兼務者)	講師 水野洋介	中央研究施設日高ランチ機能部門兼務	
(兼務者)	川口 勉		

医学研究センター

研究主任部門

海老原 康博
(部門長)

1. 構成員

部門長 海老原康博 (EBIHARA Yasuhiro) : 国際医療センター中央検査部: 教授: 任期: H30年4月1日~H31年3月31日
副部門長 田丸 淳一 (TAMARU Junichi) : 総合医療センター病理部: 教授: H30年4月1日~H31年3月31日
下岡 聡行 (SHIMOOKA Toshiyuki): 保健医療学部医学生体工学科: 教授: H30年4月1日~H31年3月31日
佐藤 毅 (SATO Tsuyoshi) : 大学病院口腔外科: 准教授: H30年4月1日~H31年3月31日
部門員 町田早苗 (MACHIDA Sanae) : 医学研究センター: 助教: 任期なし

2. 目的

本部門は研究活動にとって有意義な情報が研究主任を通して基本学科の研究員の隅々まで伝達できるよう、体制整備を行う。研究主任に対して、基本学科の研究の責任者であると同時に研究費を適正に管理・運用する責任者であることも自覚していただき、適正な運用を推進するよう指導する。研究者向けの情報を発信し、研究主任から各所属部署内での周知徹底を依頼する。学内での共同研究が推進できるよう体制整備に努め、支援活動を行う。本年は学内グラント成果発表会を2回/年開催し、学内の研究推進を図る。

3. 学内グラント受賞者成果発表会の企画・開催

1) 第17回学内グラント受賞者成果発表会

日時: 平成30年7月20日(金曜日) 17:00~19:15

場所: 毛呂山キャンパス本部棟第3講堂

川越キャンパス・管理棟2階カンファレンス3(テレビシステム中継)

日高キャンパス・教育研究棟2階会議室1(テレビシステム中継)

発表者(敬称略; 所属)・演題:

- (1) 17:05~ 難波文彦(医学部 総合医療センター 小児科)
「高濃度酸素性肺傷害マウスにおけるピルビン酸脱水素酵素の重要性」(H29 関口記念特別賞)
- (2) 17:30~ 猪股玲子(医学部 解剖学)
「参加型・双方向型学習実現の新試み: バーチャル顕微鏡システムの開発と普及」
- (3) 17:55~ 村上孝(医学部 微生物学)
「ゲノム編集による有棘細胞癌モデルの開発」
- (4) 18:20~ 加藤直子(医学部 大学病院 眼科)
「円錐角膜における炎症の果たす役割の検討」
- (5) 18:45~ 黒川理樹(ゲノム医学研究センター 遺伝子構造機能部門)
「アルギニンメチル化による長鎖非コードRNAのグローバルな制御機構の解析」

総合司会: 国際医療センター 海老原康博

座長: 総合医療センター 側島久典, 大学病院 河野康治, ゲノム医学研究センター 三谷幸之介, 堀江公仁子,
医学部 魚住尚紀

開会の辞: 別所正美 学長 閉会の辞: 松下祥 医学研究センター長

総参加数: 合計77名(大学院生20名, 医学部生1名)

毛呂山キャンパス 48名(大学院生4名, 医学部生1名)

日高キャンパス 15名(大学院生5名)

川越キャンパス 14名(大学院生11名)

2) 第18回学内グラント受賞者成果発表会

日時：平成31年2月22日（金曜日）17：00～19：15

場所：毛呂山キャンパス・本部棟第3講堂

川越キャンパス・管理棟2階カンファレンス3（テレビシステム中継）

日高キャンパス・教育研究棟2階会議室1（テレビシステム中継）

発表者（敬称略；所属）・演題：

(1) 17：05～ 増谷聡（医学部 総合医療センター 小児科）（川越からの発表）

「Fontan患者の日常運動の量と質が、Fontan循環と臓器障害に与える影響」

(2) 17：30～ 田丸淳一（医学部 総合医療センター 病理部）

「蛍光ナノ粒子を用いた高悪性度B₂細胞リンパ腫の治療層別化のための診断法を目指して」

(3) 17：55～ 柴崎智美（医学部 社会医学）

「地域住民の暮らしを支える専門職連携教育の効果に関する研究」

(4) 18：20～ 三島一彦（医学部 国際医療センター 脳神経外科）

「光感受性物質による放射線増強効果を用いた悪性脳腫瘍に対する新規治療の開発」

(5) 18：45～ 片桐岳信（ゲノム医学研究センター 病態生理部門）

「難病・進行性骨化性線維異形成症における国際的「埼玉医科大学」ブランドの確立」（H29丸木記念特別賞）

総合司会：国際医療センター 海老原康博

座長：医学部 東守洋，国際医療センター 塚崎邦弘，総合医療センター 安田貴昭，医学部 坂本安，

大学病院 池淵研二

開会の辞：別所正美 学長 閉会の辞：松下祥 医学研究センター長

参加者数：合計71名（大学院生（修士学生を含む）22名，医学部生 1名）

毛呂山キャンパス 45名（大学院生 7名，医学部生 1名）

日高キャンパス 9名（大学院生（修士学生） 1名）

川越キャンパス 17名（大学院生14名 内修士学生4名）

医学研究センター

研究支援管理部門

杉山 聡宏
(部門長)

1. 構成員

部門長 杉山聡宏 (SUGIYAMA Toshihiro) : 講師 大学病院 整形外科・脊椎外科
副部門長 小谷典弘 (KOTANI Norihiro) : 准教授 医学部 生化学
部門員 大竹 明 (OHTAKE Akira) : 教授 大学病院 小児科
森 隆 (MORI Takashi) : 教授 総合医療センター 研究部
佐藤 毅 (SATO Tsuyoshi) : 准教授 大学病院 歯科・口腔外科
町田早苗 (MACHIDA Sanae) : 助教 医学研究センター

2. 目的

研究マインド醸成, 学内グラントの活用, 学外研究費獲得の推進, 研究成果の管理, リサーチアドミニストレーションセンターとの連携による研究倫理推進等により, 学内研究者の研究活動を支援する。

3. 活動報告

1) 学内グラントと研究奨励費の助成

平成30年度学内グラント募集では, 丸木記念特別賞5件, 一般枠35件, 計40件の応募があった。分野別の複数の選考委員による予備審査の後, グラント選考委員会が開催され, 丸木記念特別賞1件, 関口記念特別賞1件, 一般枠27件, 計29件の研究テーマが採択された。さらに, 学内グラント採択課題(関口記念特別賞, 一般枠)が翌年, 翌々年度に科研費採択(研究テーマが直接関連していることが条件)の場合に対象となる研究奨励費(20万円, 購買経由の使用, 経費報告書必要なし)が計7件助成された。

2) 科学研究費獲得状況の把握

平成30年度の科研費採択結果は, 申請総数206件(申請率15.97%)に対して, 新規採択46件(採択率22.33%), 採択総額229,255千円であった。申請総数・率, 採択率, 採択総額いずれも去年とほぼ同様であった。今後も, 学内グラント等の活用により, 申請総数・率, 採択率, 採択総額のさらなる向上を目指して支援を継続する。

3) 論文投稿報告書の管理

倫理審査の対象となった研究内容についての論文投稿に際し, 義務付けられている論文投稿報告書の提出は, 平成30年度は87件であり, 平成29年度(53件)に比較して34件増加した。特に, 学内ホームページやメール配信等で報告書の提出を促した結果, 10月から3月までの報告数が増加した。なお, 倫理審査の対象となった研究とは, 大学倫理審査委員会, 保健医療学部倫理審査委員会, 3病院IRBで審査された案件に関わる全ての研究である。

4) 剽窃検知ソフト iThenticate の試験運用

論文作成では, 意図せず剽窃とならないように注意が必要である。近年の論文デジタル化とインターネット普及を背景に, 平成25年施行の博士論文オープンアクセス化(公表義務)に伴って現在までに国内の半数近くの医学部を有する大学に導入されている剽窃検知ソフト iThenticate の試験運用を, 研究マインド支援グラント(共通部門研究費)を用いて, 平成29, 30年度の2年間で実施した。なお, 剽窃とは, 他の研究者のアイデア, 情報や成果等を当該研究者の了解もしくは適切な引用なく発表することであり, このような研究不正が発覚すると著者個人だけでなく組織全体に信用失墜等の重大な影響が及ぶ。

5) 悪徳雑誌(ハゲタカジャーナル)への対応

助成を受けた論文に無料アクセスできるようにするべきであるというプランS等の国際的な潮流に伴い, 著者側が掲載料を支払い読者側は無料アクセスできるオープンアクセス誌が増加しているが, 誤って悪徳雑誌(ハゲタカジャーナル)に投

稿しないように注意が必要である（日本医学会から注意喚起の通達が発行され、日本学術会議において対応策が検討中である）。平成 30 年度には学内ホームページやメール配信等により、英語論文投稿時は「投稿予定のジャーナルは PubMed に掲載されていますか?」「参照可能な優良出版社が運営するジャーナルですか?」等について確認するように注意喚起し、前述の論文投稿報告書に新たなチェック項目を設けた。

医学研究センター

共同利用施設運営部門

坂本 安
(部門長)

1. 構成員

部門長：坂本 安 (SAKAMOTO Yasushi)：中央研究施設機能部門：教授：任期：H31年3月31日
副部門長：佐藤 毅 (SATOH Takeshi)：歯科・口腔外科：准教授：任期：H31年3月31日
副部門長：田丸 淳一 (TAMARU Jyunichi)：総合医療センター病理部：教授：任期：H31年3月31日
部門員：大島 晋 (OHSHIMA Susumu)：中央研究施設形態部門：准教授：任期：H31年3月31日
部門員：一色 政志 (ISSHIKI Masashi)：中央研究施設 RI 部門：准教授：任期：H31年3月31日
部門員：仁科 正実 (NISHINA Masami)：中央研究施設実験動物部門：准教授：任期：H31年3月31日
部門員：椎橋実智男 (SHIIBASHI Michio)：情報技術支援推進センター：教授：任期：H31年3月31日

2. 目的

本学研究者による最先端の高度な研究推進を支援するための学内共同利用の研究施設が、本学における臨床及び基礎医学研究の推進・発展の基盤となり機能するために必要な事項について検討し、必要に応じて部門会議を開催して討議する。

3. 活動報告

【共同利用実験室利用の啓蒙と整備】

共同利用実験室は、実験室を持たない教員に対して、最小限の機器を備えた実験場所を提供し、もって当該教員の研究活動のセットアップに資することを目的として平成24(2012)年9月10日より運用が開始された。平成30(2018)年度は、医学研究センター、皮膚科、消化器一般外科、医学教育センター、ER、生理学(2グループ)、小児科、アドミッションセンター、消化管内科、毛呂山キャンパス RI 部門、歯科・口腔外科、保健医療学部看護学科により有効利用された(総利用料：¥276,000)。

【研究機器・設備整備】

①平成30(2018)年6月、ホシザキ社製製氷機(FM-120K)、メトラー・トレド社製分析天秤(ME204)が、平成30年度埼玉医科大学 研究マインド支援 Grant により日高ランチ機能部門に研究支援のために導入され、利用が開始された。

【テクニカルセミナーの開催】

以下のテクニカルセミナーを開催し、機器の取り扱い及び新しい研究技術を紹介した。

①平成30(2018)年9月6日、14:00-16:00、基礎医学棟3階・中央研究施設機能部門「日本電波工業 NAPICOS デモと利用方法」対象：学内研究者

【委員会等】

1) 共同利用施設運営部門／中央研究施設運営委員会会議

①第70回中央研究施設運営委員会会議、日時：平成30(2018)年5月7日(月)～5月9日(水)、【議題】1) 研究マインド支援 Grant (共通部門)と中央研究施設の設置希望機器リストについて【議事】学内 Grant (研究マインド支援 Grant (共通部門))が公募(4月～5月10日メ切)され、各部門において対象となり得る機器のリストアップが行われた旨、報告された。また、これに伴い設置希望機器リストの更新について説明された。日高ランチ機能部門の範囲内からのみのリストアップであったため、内部協議の結果、4月に開設された日高ランチ機能部門の早期運営に不可欠な機器を優先した旨、説明された。〈研究マインド支援 Grant (共通部門)申請機器〉1位：リスト No.10 ホシザキ社製 製氷機 FM-120K ¥859,680, 2位：リスト No.11 メトラー・トレド社製 分析天秤 ME204 ¥180,000, 3位：リスト No.12 TOMY 社製 微量高速冷却遠心機 MX-307 1 式, 4位：リスト No.8 Bio-Rad 社製 マイクロプレートリーダー iMark

¥1,125,360, ②第71回中央研究施設運営委員会議, 日時:平成30(2018)年7月25日(月)~9月3日(月), メーリングリスト会議, 【議題】1) 研究マインド支援グラント(共通部門)と中央研究施設の設置希望機器リストについて, 2) 中央研究施設運営委員会規則改正について 【審議】1) 前回, 報告された平成30年度研究マインド支援グラント(共通部門)への申請結果について以下の1~2位の機器が採択された旨報告され, 現在の新規設置希望機器のリストが更新された. 1位:リストNo.10 ホシザキ社製 製氷機 FM-120K ¥859,680, 2位:リストNo.11 メトラー・トレド社製 分析天秤 ME204 ¥180,000, 2) 中央研究施設運営委員会規則改正に関して, 中央研究施設の拡大に伴い, 現在の中央研究施設は部門長7名, 施設長1名となった. これに伴い, 他組織に倣って各部門長の辞令交付を定期的に行うため, 中央研究施設規則第5条の「部門長」に関して任期期間(2年)を設ける改正案が施設長より提出され, 承認された.

【共同研究の啓蒙活動等】

東洋大学バイオ・ナノエレクトロニクスセンター(平成29年4月1日~令和元年3月31日)及び城西大学(平成28年4月1日~31年3月31日)と中央研究施設の間で共同研究契約書を取り交わしており, 共同利用施設を有効利用した共同研究が継続されている. 更に, 日高ランチ機能部門管理下に, 毛呂山キャンパスと同様の共同利用実験室, 共同利用フェローステーションの整備が進んでおり, リサーチパークにおいて研究活動を行う会社, 各キャンパスの研究者による共同研究の推進とその支援に関して本格的な活動がスタートされる.

4. 評価と次年度目標

実験動物施設における感染対策に関しては, 極めて良好な結果が得られている. 感染動物の検出はほぼ陰性の状態を続けている. 助成金申請に関わる変化が大きいため共同利用施設運営部門として事務部門とタイアップし, 共同利用研究機器購入経費を獲得することを目的として活動して来たが, 他大学との連携が重要な面があり, 今年度は新たに外部向けホームページの作成を行い, 共同利用施設の設備の情報公開と新たな連携大学の開拓を推進している.

平成30(2018)は, リサーチパーク開設に伴い共同研究の遂行をサポートするために中央研究施設日高ランチが改組されたが, 日高ランチ機能部門, RI部門, 実験動物部門各部門が整備をスタートし, 組織としても拡大されたため, 各研究者, 事務系とも連携を深め運営を遂行することができた. 次年度4月からの本格的な支援活動の遂行を目指しているが, 共同利用実験室の整備を更に進める必要があるため, 共同利用施設運営部門として日高キャンパスの各部門の活動の支援を行う. また, 外部向けホームページへの日高ランチの情報公開を目指す.

医学研究センター

安全管理部門

三谷 幸之介

(部門長 ゲノム医学研究センター 遺伝子治療部門 教授)

1. 部門構成

部門長 三谷幸之介：ゲノム医学セ 遺伝子治療部門 (教授)

感染分野

副部門長 松井政則：微生物学 (准教授)

部門員 森 隆：総医セ 研究部 (教授)

光武耕太郎：国医セ 感染症・感染制御科 (教授)

佐藤正夫：保医学部 健医科学科 (教授)

河村 亨：臨床検査医学 (中央検査部) (係長)

池田和博：ゲノム医学セ 遺伝子情報制御部門 (講師)

廃液等環境分野

副部門長 奥田晶彦：ゲノム医学セ 発生・分化・再生部門 (教授)

部門員 森 隆：総医セ 研究部 (教授)

安達淳一：国医セ 脳神経外科 (准教授)

野寺 誠：保医学部 健医科学科 (准教授)

淡路健雄：薬理学 (准教授)

DNA 分野

部門長 三谷幸之介：ゲノム医学セ 遺伝子治療部門 (教授)

副部門長 千本松孝明：RA センター (教授)

松井政則：微生物学 (准教授)

部門員 中野貴成：生化学 (講師)

村上 孝：微生物学 (教授)

佐藤浩二郎：大学病院 リウマチ膠原病科 (准教授)

森 隆：総医セ 研究部 (教授)

海老原康博：国医セ 臨床検査医学 (教授)

横尾友隆：中央研究施設日高ランチ 実験動物部門 (講師)

脇田政嘉：保医学部 臨床工学科 (講師)

菅原哲雄：RA センター 知財担当 (講師)

動物分野

副部門長 森 隆：総医セ 研究部 (教授)

西川 亮：国医セ 脳神経外科 (教授)

鈴木正彦：保医学部 健医科学科 (教授)

仁科正実：中央研究施設 実験動物部門 (准教授)

横尾友隆：中央研究施設日高ランチ 実験動物部門 (講師)

薬物分野

副部門長 淡路 健 雄：薬理学（准教授）
西 本 正 純：ゲノム医学セ RI 実験施設（講師）
齋 藤 健 一：総医セ 薬剤部（課長）
藤 田 健 一：国医セ 腫瘍内科（講師）
鈴 木 正 彦：保医学部 健医科学科（教授）
村 松 俊 裕：国医セ 心臓内科（教授）

RI 分野

副部門長 一色 政 志：中央研究施設 RI 部門（准教授）
西 川 亮：国医セ 脳脊髄腫瘍科（教授）
熊 倉 嘉 貴：総医セ 画像診断科・核医学科（教授）
西 本 正 純：ゲノム医学セ RI 実験施設（講師）
下 垣 里 河：保健医療学部 臨床検査学科（講師）

2. 今年度の活動

感染分野

平成 30 年度は、病原体等取扱申請書 23 件（新規申請 8 件，継続申請 14 件，変更・追加申請 1 件），病原体等移動（受入）申請書 9 件，病原体等廃棄届 1 件，指定実験室使用申請 2 件が提出された。これらの申請に関して，病原性微生物等管理委員会で審議，修正された後，すべて承認された。また，新たに BSL2 施設を使用する 3 名に教育訓練を行った。

今年度も文部科学省研究振興局・ライフサイエンス課・生命倫理安全対策室より，「病原性微生物等の保管・管理の徹底」についての注意喚起と「病原微生物等の保有状況等の調査報告書の提出」を求める依頼文書が本学に届いた。病原性微生物等管理委員会が，A) 調査対象の病原微生物等の保有状況と，B) BSL2, 3 実験室の保有状況について調査を行い，事務部庶務課から文科省へ調査報告書が提出された。また，西入間警察署より依頼された，本学の病原性微生物に関する取扱状況，管理状況等に関する調査票を記入し提出した。

廃液等環境分野

当該分野の委員は毛呂山，日高，川越の 3 つのキャンパスのそれぞれから各 1 名以上選出されており，各キャンパスの事務方と共同して実験廃液の処理・管理にあたっている。平成 30 年度においても廃液等において全く問題が生じておらず，各キャンパスでの当該部門員と事務方との連携がうまくできているからだと考えている。化学リスクアセスメントの義務化は廃液管理とは直接的ではないが間接的に関係する部分があるので，その点についても留意して活動している。

DNA 分野

今年度の遺伝子組換え生物等の使用等における審査申請状況は次の通りである。第二種拡散防止措置申請書（承認 42 件），内容変更（承認 33 件），譲渡届（承認 3 件）。また，組換え実験施設について登録，審査を実施した（6 件）。

「埼玉医科大学組換え DNA 実験安全管理規則」の一部を改正し，平成 30 年 5 月 18 日開催の常任理事会にて承認され，平成 30 年 4 月 1 日から適用されることとなった。

平成 29 年度より，実験の状況について毎年翌年 5 月末日までに報告書の提出を求めることとした。29 年度末から 30 年度初めにかけて，研究期間終了に伴う新規申請や延長申請が例年より多くみられた。ご自身の研究課題の承認期間や研究内容を改めて確認していただき，より厳格な組換え生物の管理を行うためにも，一定の効果があつたと考えられる。

第 3 期として引き続き，研究マインド支援グラントに採択された。P2 実験室に設置している安全キャビネットの保守点検は残り 2 台，更にヘパフィルター交換が 2 台必要である。現在，保守点検と交換手続き中である。本件完了後，学内の P2 実験室における安全キャビネットの保守点検，フィルター交換が完了する。

動物分野

学内にて実施される全ての動物実験は，各キャンパスに設置されている動物実験小委員会そして埼玉医科大学の動物実験委員会により動物実験計画書の審査・承認が行われている。平成 30 年度，各キャンパスから提出された動物実験計画書 228 件 [注意を要する動物実験計画書：組換え DNA 実験（P1A 実験：81 件，P2A 実験：8 件），感染実験（ABSL1 実験：3 件，BSL2 実験：9 件），劇物使用実験：2 件，RI 使用実験：5 件]，動物実験中間報告書・自己点検票 201 件，動物実験結果報告書・自己点検票 27 件，動物実験計画（変更・追加）承認申請書 64 件，動物実験（終了・中止）報告書 27 件，実験室設置承

認申請書 28 件について審査を行い承認した。さらに、随時メール審査を開催し、円滑に動物実験計画書、動物実験計画（変更・追加）承認申請書、実験室設置承認申請書の審査を行い承認した。様式 8 動物実験の自己点検票と様式 9 飼養保管状況の点検票により、平成 30 年度の動物実験そして飼養保管状況の自己点検を行った。遺伝子組換え生物等を使用した動物実験は、組換え DNA 実験安全委員会により第二種使用等拡散防止措置承認申請書の審査・承認が行われた。また、動物実験等に関する情報公開の一環として、以下の 1-6 の内容を外部閲覧可能なホームページ（<http://www.saitama-med.ac.jp/medlinks/animal/index.html>）に行った。

1. 期間内規程・規則（埼玉医科大学動物実験規程，埼玉医科大学動物実験委員会規則）
2. 自己点検評価の結果
3. 外部検証の結果
4. 飼養及び保管の状況（動物種及び動物数施設の情報）
5. その他（動物実験計画書等の審査の状況と特に注意を要する動物実験の実施状況，教育訓練の実績，動物実験委員会，動物実験委員会審査手順書）
6. 動物実験計画書関連書式（様式 1 動物実験計画書，様式 2 動物実験計画（変更・追加）承認申請書，様式 3 動物実験（終了・中止）報告書，様式 4 動物実験（中間・結果）報告書，様式 5 飼養保管施設設置承認申請書，様式 6 実験室設置承認申請書，様式 7 施設等（飼養保管施設・動物実験室）廃止届，様式 8 動物実験の自己点検票，様式 9 飼養保管状況の点検票）

薬物分野

本学の化学物質管理は、毛呂山キャンパス（ゲノム・保健医療学部を含む）・国際医療センター・総合医療センターと広範囲に及ぶために、それぞれのキャンパスにおける管轄行政機関が異なっている。また、本学化学物質管理規則も毛呂山キャンパス（ゲノム・保健医療学部を含む）・国際医療センター・総合医療センターで異なっており、現状の研究センター・安全管理部門・薬物分野での一括した化学物質管理が困難であった。このため、薬物分野は業務の見直しを図っており、本学全体での対応が必要な化学物質管理に関して、各毛呂山キャンパス・国際医療センター・総合医療センターへの調査・連絡・勧告を主業務とする方向で調整を進めている。

1. 研究用麻薬申請・向精神薬管理を薬物部門で一括して行っていたが、管轄保健所が異なること並びに、化学物質管理規約が異なることより各キャンパスで独立して管理を行う方向に決定した。このため、薬物分野としては研究用麻薬・向精神薬の学内調査を行い、研究センター会議で報告の予定である。また、基準となる毛呂山キャンパスにおける麻薬・向精神薬管理規約を策定し、国際医療センター・総合医療センターの現状にあった管理規約の策定を求める方向である。このため研究センターの HP の内容が不適切になるため改定を予定している。
2. 化学物質管理の一部である労働安全衛生法に対応していた「化学物質対策会議」の業務に一応の区切りがついたため解散となった。このため、一部業務を薬物分野が継続することとなっている。化学物質管理の厳密化が求められており全化学物質の在庫管理・使用簿の記載など煩雑な事務手続きが必要になることが予想されている。加えて継続課題として、労働安全衛生法改正により必要となる化学物質についてのリスクアセスメントの問題もあり、管理方法のルールづくりを慎重に検討を継続している。

RI 分野

新たに副部門長 一色政志が就任して 1 年経った。放射線障害予防規程に基づく放射線業務従事者への問診を実施した（7 月：受診 24 名，1 月：受診 23 名）。既登録者のための再教育訓練を 3 月に開催した。今回の再教育訓練内容は、法令改正に伴う放射線障害予防規程の変更について、中央研究施設 RI 部門・放射線取扱主任者の日詰光治が講演した（受講者 20 名）。法改正では、①防護（セキュリティ）強化について②自主的な管理（責任者の設置，教育訓練についての見直し）③緊急時の対応、RI の漏えいに関する報告基準の変更、があった。今後の原子力規制庁の立ち入り検査に備えて老朽化している施設を少しずつでも直してもらおうよう、施設部へ依頼している。

医学研究センター

フェロースhip部門

片桐 岳信
(部門長)

1. 部門概観

＜部門員構成＞

部門長	片桐岳信 (KATAGIRI Takenobu)	: ゲノム医学研究センター病態生理部門: 教授 (任期: H31.3.31)
副部門長	高田 綾 (TAKADA Aya)	: 法医学: 教授 (任期: H31.3.31)
部門員	森 茂久 (MORI Shigehisa)	: 医学教育センター: 教授 (任期: H31.3.31)
部門員	名越澄子 (NAGOSHI Sumiko)	: 総合医療センター消化器・肝臓内科: 教授 (任期: H31.3.31)
部門員	石原 理 (ISHIHARA Osamu)	: 産婦人科学: 教授 (任期: H31.3.31)
部門員	淡路健雄 (AWAJI Takeo)	: 薬理学: 准教授 (任期: H31.3.31)
部門員	村松俊裕 (MURAMATSU Toshihiro)	: 国際医療センター心臓内科: 教授 (任期: H31.3.31)
部門員	小林直樹 (KOBAYASHI Naoki)	: 保健医療学部・臨床工学科: 教授 (任期: H31.3.31)

＜活動目的＞

研究科委員会や医学教育センター大学院教育部門との連携のもとに、常勤教員以外の研究者（非常勤研究者）の経済的・身分的支援を目的とする。

＜業務＞

1. 奨学生の選考
2. 非常勤研究員の審査・登録
3. 非常勤研究員の身分証明
4. 専攻生授業料免除の審査
5. 各種非常勤研究員の身分的位置づけおよびその他の支援体制の確立
6. 上記と関連して規定集（専攻生、協力研究員、特別協力研究員、特任研究員）の確認
7. 研究支援制度に関する議論と提案

2. 平成30年度の活動

- ・H30年4月から、変則的に単年度（H31年3月31日まで）の任期で活動を行った。
- ・「埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金」の制度は、一旦の休止を経て、学長および医学研究センター長の了承のもと、平成25年4月より暫定的に再開されている。平成30年度も、「平成31年度埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金」の公募を行い、外国人留学生1名を候補者として選考した。その後、候補者より就職内定による辞退の申し入れがあり、了承された。
- ・候補者の辞退等が続いたために、複数年にわたり奨学金が有効に執行されていない。改善策を検討し、応募者を増やすために英語版の募集要項を作成すると共に、12月に二次募集を行った。しかし、依然として応募者の増加につながっていない。申請者の十分な準備期間を確保するために、募集要項の掲示時期を早めることや、複数年の継続給付など、さらなる改善策を引き続き議論することとした。
- ・「埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金規定」の見直しを行い、規定と関連様式の改正案を検討した。

3. 現状と今後の課題の総括

＜本奨学金の有効利用について＞

- ・「埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金」が有効に利用されるよう、学内に広く周知すると共に、今後の改善策について継続的な議論を行う。

<定例会議とメール会議>

- ・それぞれの課題について迅速に結論を出すため、基本的に毎月1回程度のメール会議を行う。

医学研究センター

研究評価部門

椎橋 実智男
(部門長)

研究評価部門の現在の主な活動は、本学独自の研究業績データベースシステム（「研究業績プロ」）の運用による、本学の研究業績のデータベース化および国立研究開発法人科学技術振興機構が運用する「新世代研究基盤リサーチマップ（researchmap）」と連携した研究業績の公開、教員の研究と診療の専門性に関するデータベースの運用である。また、平成28年度からは研究活動実績登録の運用を開始し、人事考課で教育と同じく「研究のポイント制」を実施している。これらを通して、本学の研究活動の発展に寄与すべく活動を続けている。以下に、平成30年度の活動状況を報告する。

1 研究業績データベースシステム（「研究業績プロ」）について

1) 概要

「研究業績プロ」は、本学独自の研究業績データベースシステムで、本学の全研究者を対象に研究に関わる情報を蓄積し、学内に公開するシステムである。

<https://mrc-gdd.saitama-med.ac.jp/smsap/P300>

（医学研究センターのホームページからもリンクあり）

平成31年3月現在、医学部と保健医療学部をあわせて1,151名の研究者が登録されている。利用（アクセス）の状況を図1に示す。

2) 運用の状況（平成30年4月から平成31年3月まで）

- 4月 保健医療学部の教員に対する利用説明会の実施
- 5月 中央研究施設を利用した研究成果のデータの提出
- 6月 国際医療センターへの研究業績の提出
- 7月 人事考課のための研究活動実績登録データダウンロード
- 8月 大学病院への研究業績の提出（特定機能病院）
- 11月 researchmap とのデータ交換の実施
- 12月 researchmap とのデータ交換の実施

3) システムの更新とカスタマイズ等

- ・共著者の一括登録機能の追加
- ・重複データ検索機能の追加
- ・データの一括インポート機能の追加

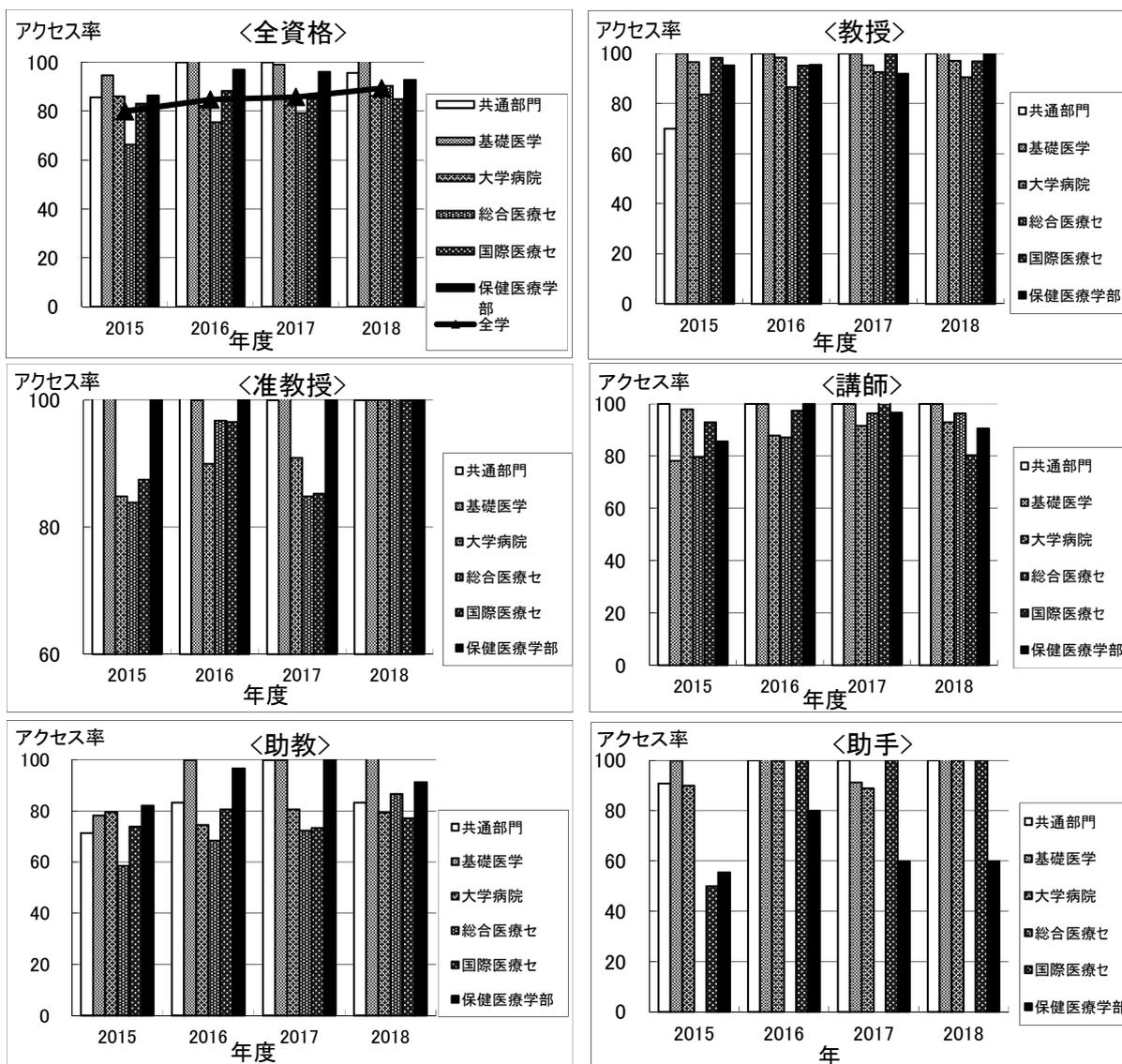
研究業績データベースアクセス数(2018/4 ~ 2019/3)

	教授	准教授	講師	助教	助手	合計
共通	8	1	3	5	5	22
基礎医学	21	19	31	18	22	111
大学病院	66	30	40	178	8	322
総合医療センター	48	36	54	228	0	366
国際医療センター	62	34	37	105	1	239
保健医療学部	27	11	29	21	3	91
合計	232	131	194	555	39	1151

研究業績データベースアクセス率

	教授	准教授	講師	助教	助手	合計
共通	100.0	100.0	100.0	83.3	100.0	95.7
基礎医学	105.0	100.0	100.0	105.9	104.8	102.8
大学病院	97.1	100.0	93.0	79.5	100.0	86.3
総合医療センター	90.6	109.1	96.4	86.7	0	90.4
国際医療センター	96.9	100.0	80.4	77.2	100.0	85.1
保健医療学部	100.0	100.0	90.6	91.3	60.0	92.9
合計	96.7	102.3	91.9	83.0	97.5	89.4

2019-3-31現在



* 100%を超えているのは、退職後、非常勤になってからもログインした方がいるため

図 1.